

# ある養蚕教師の肖像 1

養蚕教師と呼ばれる人々によって導入された温暖飼育法などの新しい技術が果たした役割は大きい。彼らが新しい養蚕業を支えていたといっても過言ではないくらいです。養蚕業のイノベーター（革新者）である養蚕教師のムラにおける位置付けという見方も重要です。ここでは、下荻野の養蚕教師・小林升さんのパーソナルな資料から、この人がムラ、そしてムラの養蚕技術などに及ぼした影響を考えてみます。



明治以前の養蚕をリードした養蚕書、その著者の職業や経歴をみると、蚕種製造家または蚕種販売家が17名、養蚕家、富農が12名で、計29名と、全体の約30%を占めていました。つまり、蚕種家、蚕種商の影響が大きかったです。同時に、農書が為政者側の勸農奨励かんのうしやうれいの意図による刊行が多いのに対し、養蚕書は民間の人々によって刊行されています。

日本の養蚕技術の主要な骨組みはすでに江戸期に出来上がっていましたが、そこに欠けているものとして、理論的説明の不十分さ、条件の変化に対する技術の適応性の不足、その結果として信頼性、普及性が劣る点があげられています。明治以降、日本の養蚕技術はヨーロッパの科学、特に蚕体解剖学、生理学及び病理学の影響下で、さらに発達しました。その担い手となったのが「養蚕教師」たちであるといえます。

## 小林升、競進社入学の謎

小林升は、カドヤと呼ばれる屋号をもつ下荻野の家で、農業を営む父・茂平（嘉

明治6年10月	下荻野に誕生
明治25年	三郡共立学校（現県立秦野高校）卒業 築地養蚕伝習校入学
明治27年	蚕業伝習所・競進社（現埼玉県本庄市）入学
明治31年	夷隅郡立第二養蚕伝習所（千葉県）の教授員（養蚕教師）として指導にあたる
明治32年	徳島県麻植郡川島町郡立養蚕伝習所で指導。『競進社 養蚕法養蚕実験説』を編集。『明治日本 名蚕家月旦録』に名蚕家（実直家）として紹介される
明治33年～	鎌倉郡戸塚町の共進会等で指導。その後も神奈川県 <small>の</small> 蚕種検査員として活躍
明治41年	荻野村下荻野繭乾燥組合を荻野に設立
明治43年2月	荻野村助役を経て9代荻野村村長に就任（昭和5年8月まで、12～14代）
昭和29年	下荻野にて死去（墓所は法界寺）

永 5 年生れ)、そして母・キノ(嘉永 5 年生れ、厚木町から嫁入)の長男として、1874 年(明治 6)10 月に生まれました。三郡共立学校(平塚市金目、現在の神奈川県立秦野高校)を卒業後、翌年の 3 月に築地養蚕伝習校へ入校しています。明治 26 年に、築地養蚕伝習校に入った翌年、升は埼玉県児玉郡にあった蚕業伝習所・競進社へ入社しているのです。当時の荻野では、地元の相愛社、関谷の伝習所がつぶれてしまっていたにせよ、依知にはまだ順気社がありました。にもかかわらず、升は何故、築地養蚕伝習校、そして遠く埼玉の競進社へ入ったのでしょうか。



升が三郡共立学校(現在の神奈川県立秦野高校)を卒業した頃、全国で養蚕団体が結成されました。厚木市域をみてみましても、明治 18 年には荻野に「相愛社」が、依知には「順気社」が明治 21 年に創立されました。相愛社は、池田孫右衛門(西ヶ原蚕業講習所出身)、関谷重次郎(埼玉県人)を教師に招きましたが、十分な効果をあげられず解散。明治 24 年には、関谷重次郎が中荻野に「関谷流伝習所」を設けますが、数年で閉鎖されてしまいます。

一方、順気社は温暖育の指導を中心に、良好な成績を残し、社員 800 名を数えるに至りました。明治 32 年、愛甲郡会が農事試験場創設費の歳出を決める中、順気社はその活動を閉じました。

### 升の日記にみる明治の鉄道旅行

升が入社した年の「明治二十七年 埼玉県旅行日記」には、旅程と講義についての簡単なメモが残されていますが、競進社入社事情についてはふれられていません。それにしても荻野をでて三日目の朝にやっと児玉町に到着するというのは、やはり便利になったとはいえ、汽車による明治の旅もいまだたいへんなものであったことがうかがわれます。

これが当時、荻野から北関東方面へ旅行する際の一般的なルートであったとは思えませんが、鉄道を利用するとなると、升の辿った経路をとらざるを得ないと考えられます。また、新橋から上野までは、新橋 - 日本橋、日本橋 - 万世橋、万世橋 - 上野の三区域で 2 銭 × 3 区域で 6 銭かかったことが資料から分かりま

す。

\*

「明治二十六年四月十八日 故郷出發厚木行ニ乗リ充分旅装ヲ埋(整?)シ 全日早川ニテ泊ス此日天氣清朗南風アリ

四月十九日 早晚早川出發鎌倉郡戸塚(此間行程三里余)ヨリ汽車ニテ新橋マデ走シリ鉄道馬車ニテ上野マデ上野停車(場)ニ於イテ昼食ヲ喫シ午前十一時四十五分發高崎行ノ汽車ニテ本社マデ至リ。本社ヨリ児玉町ニ至ル。但し児玉町マデ本社ヨリ行程二里ナリ。時ニ午後五時競進社事務所ニ至リ。青柳村社屋ニテベントヲ食セリ。而シ青柳村マデ八尚二里余リアリ。故ニ全町旅籠中川やニ泊ス。本日八曇リ少シ八陽テル。

(四月)二十日 朝来朦々微雨在ナリ午前七時児玉町中川ヲ出立青柳村ニ到着此間ノ程壱町ニテ本社方ニ到着ス

箸ケズリ、粟ヌカイリ

蚕種八十四日ニ児玉町、本庄町貯蔵庫ヨリ出シ本室ニ移シ催青法ヲ施ス但シ二十八日頃發生ナルベシ。

(四月)二十一日 晴天、掃立テ準備セン為メコモガゴ等ヲセンテキスケゴボウキノ製造ヲナス。此度(九蔵)先生ニ面会シ種々談話ヲナセリ。

種八午前十二時マデ

初日 五十、二日 二、三日 五

四日 三、五日 百

ノ發生ノ事トス

發生ノ早キ年ニハ晩キヲ可トシ發生ノ晩キ年ニハ早キヲ可トス

發生早キ時ニ四眠ニ於イテ其害極ワル

(四月)二十二日 快晴、午後五時ニ

前日ニ引続キコモ籠等ノ洗淨ヲナス午後炭カキヲナス

炭ノ丈ケ一寸ヨリ二寸揃度

(四月)二十三日 快晴、午後.....

前日ニテコモ籠等ノ洗淨ヲナス砥石ヲスリ包丁ノ研方ヲナス

(四月)二十四日

朝来雨天、午後.....

午前 10 時ヨリ長炭轆キ火イケ

(四月)二十五日 午後.....

前日掃立ノ稽古ヲナス其法マズ云

掃立ヨリ二日後羽根切りマデヲ学ブ

(四月)二十六日 午後.....

終日雨天メド葉採リ

午後前日習ヒタ憶タル掃立ノ稽古ヲナス

(四月)二十七日 午後.....

雨天終日過マデ六号室ノ当番トナリタル全室ヲ掃除ス

(四月)二十八日 午後.....

午前九時頃マデ雨天夫レヨリ晴」

### 勉強家・升の論考

勉強家の升は『大日本蚕糸会々報』『養蚕新報』を荻野村々長になった後も購読し、若い頃には数篇を寄稿もしています。下のリストは小林升の執筆した論考と、養蚕教師に関する記事のリストです。

他にも、升は競進社の養蚕法に強く共鳴したことから、木村九蔵の事跡をまとめた『競進社 養蚕法養蚕実験説』（明治 32 年 = 1899。飯田孝氏蔵）の編集もしています。

NO	タイトル	著者	掲載紙	号数	発刊年	備考
34	完全貯蔵蚕種の成績	小林 升	蚕業新報	27	1895	3小林 升
35	養蚕家に共同乾燥場の設立を望む	三谷 徹	大日本蚕糸会報	169	1898	3小林 升
36	敢えて同窓之諸君に告ぐ	小林 升	蚕業新報	64	1898	3小林 升
37	本邦蚕業改革の方針や如何	小林 升	蚕業新報	66	1898	3小林 升
38	本邦蚕業改革の方針や如何 続	小林 升	蚕業新報	68	1899	3小林 升
39	某に答えて繭質一定を論ずるの書	小林 升	蚕業新報	79	1899	3小林 升
40	蚕書要覧 『日本明治名蚕家月旦録』	蚕業新報	蚕業新報	77	1899	3小林 升
47	雑報 西ヶ原の出身者 (その就職先)	大日本蚕糸会報	大日本蚕糸会報	59	1897	5養蚕教師
48	熊本県の蚕業	蚕業新報	蚕業新報	79	1899	5養蚕教師
49	所謂 養蚕教師なる者に就いて	蚕業新報	蚕業新報	98	1901	5養蚕教師
50	農蚕学校の蚕室は果たして贅沢なるか	針塚長太郎	大日本蚕糸会報	210	1909	5養蚕教師
51	京都高等蚕業学校本科入学試験	大日本蚕糸会報	大日本蚕糸会報	279	1915	5養蚕教師
52	東京高等蚕業学校本科入学試験	大日本蚕糸会報	大日本蚕糸会報	280	1915	5養蚕教師

53	蚕座紙に就いて	野々口虎男	大日本蚕糸会報	279	1915	5 養蚕教師
54	蚕座紙に就いて 続	野々口虎男	大日本蚕糸会報	280	1915	5 養蚕教師